

## 6月8日のウクライナ情報

安齋育郎

### ① 米国がスコット・リッター氏の旅券を没収事件にザハロフ氏がコメント(Sputnik, 2024年6月4日)

「米務省の命令で米国の警察は、ペテルブルグ経済フォーラムに行くはずだったコラムニストのスコット・リッター氏を搭乗機から降ろした。これは米憲法修正の第1条に基づいて行われたんですか？ それとも第4条？」リッター氏をめぐる状況についてロシア外務省のマリア・ザハロフ公式報道官はこうしたコメントを発表した。

米憲法修正の第1条は言論および集会の自由の保証を、第4条は不当な捜査と拘束を禁じている。

元CIA分析官のラリー・ジョンソン氏は状況をこう読み解いている。

「米国の政策を批判していただけた自国民を、自由に旅行できないようにすることで罰している。これは逆効果になると思う。なぜなら、スコット氏の注目度はこれで下がるところか、ますます高まるだろうからだ。これで彼のメッセージには今まで数人単位ではなく、より多くの人が耳を傾けることになるだろう」

氏を助けることはできないと述べた。ラブロフ外相はまた、この状況は米国が警察国家に変貌したことを示す一例だと指摘している。

3日、元米海兵隊諜報部員のスコット・リッター氏はペテルブルク国際経済フォーラムに参加するため搭乗していた機内で税関職員に自国の政権にパスポートを没収された。リッター氏はこのため、飛行機を降りざるを得なくなった。

リッター氏は元米海兵隊諜報部員で国際連合大量破壊兵器廃棄特別委員会主任査察官を務めた経歴の持ち主。ウクライナ紛争に関してはバランスのとれた立場を堅持し続けており、同紛争について、国際安全保障、軍事問題、中東情勢についてはスプートニクと同様の見解を持ち、寄稿している。



<https://sputniknews.jp/20240604/18557020.html>

### ② アジア太平洋諸国はゼレンスキーの支援「お願い」に応じるのか？(Sputnik, 2024年6月5日)

「米国の属国の韓国、日本、フィリピン、台湾、豪州は、ゼレンスキー政権への武器供給し続けるために、ワシントンからすごい圧力を受けるだろう」。中国の専門家で、Seek Truth From Facts Foundationの創設者であるジェフ・J・ブラウン氏は、ゼレンスキーがシンガポールで開催の「アジア安全保障会議」(シャングリラ・ダイアログ)をサプライズ訪問したことについてスプートニクからの取材に語った。

ブラウン氏は「比較的弱い」アジア太平洋諸国は「米国にへつらっていないなければならない」と指摘する。へつらわない場合、米国は諸国を従属させるために、封鎖、ボイコット、制裁、関税に加えて、暗殺、脅迫、賄賂、恐喝、フェイクニュース、偽旗作戦といった常套手段を使うからだ。

ブラウン氏によれば、これらの諸国は中国やロシアといった国々と協力することを好むが、「世界の警察おじさん(米国)は筋力を使うために常にそこにいる」

「従って、多極化したアジア太平洋諸国はウクライナの話を知っているふりをし、話を合わせておいて、その後はほとんど何もしない可能性が高い」



<https://sputniknews.jp/20240605/18558290.html>

### ③ 露防衛産業の成長は予想外に急速だった = NATO 事務総長(Sputnik, 2024年6月4日)

NATO のイェンス・ストルテンベルグ事務総長は、英放送局スカイニュースのインタビューで、ロシアの防衛産業の成長が予想よりはやかたたと述べた。一方、NATO ではより武器生産に時間がかかっていると指摘した。「ロシアが我々の予想より迅速に防衛産業を構築できたのは確かだし、NATO の同盟諸国が生産増強に必要な以上に時間を費やしたのも確かだ」

ストルテンベルグ事務総長はこのごろ、ウクライナに供給する西側兵器によるロシア領攻撃を認めるよう、NATO 各国に呼びかけていた。一方でロシアはこれまでに NATO 諸国に対し、ウクライナへの武器供与は交渉と停戦を遠のかせ、いたずらにウクライナ軍の損失を拡大させるだけだと警告を発している。



<https://sputniknews.jp/20240604/nato-18555442.html>

#### ④ バイデン氏、ウクライナがロシアに敗北した際の地政学的リスクを指摘(Sputnik, 2024年6月5日)

ウクライナがロシアに敗北した場合、ポーランドを含む東欧の国々は独自の路線を追求する可能性があり、これはNATOの「崩壊」に繋がる。バイデン大統領はタイム誌の取材で次のように述べた。

「私の言葉をしっかり心に刻んでください。仮にウクライナの敗北を許せば、ポーランドは離脱し、バルカン半島からベラルーシに至るまで、事実上、ロシアとの国境沿いにあるすべての国々が独自の行動をはじめましょう」

そのうえで、11月の大統領選挙で勝利すれば「今後長期にわたる欧州の未来を形作る」と付け加えた。

「だからこそ、我々はNATOの崩壊を許すことができません。我々は政治的、経済的、そして軍事的にNATOを構築する必要があり、これに多額の投資を行っているのです」

先に米国はロシア領内における米製兵器の使用をウクライナ軍に許可した。使用はハリコフ州に対する攻撃に関与するロシア軍の施設のみを対象としている。なお、米兵の派遣については一度も踏み込んだ発言を行っていない。



[https://sputniknews.jp/20240605/18559066.html?rcmd\\_alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20240605/18559066.html?rcmd_alg=collaboration2)

#### ⑤ イタリア、ウクライナ軍の西側兵器によるロシア領土への攻撃に反対(Sputnik, 2024年5月26日)

NATOのストルテンベルグ事務総長が「同盟国はウクライナに提供した兵器の使用に課した制限の一部を解除すべきか検討する時期が来た」と発言したことに対し、イタリアのタヤーニ副首相兼外相は「イタリアから送られた軍事装備はウクライナ国内で使用されるべきだ」と述べた。イタリアの通信社「Adnkronos」が報じた。

「ウクライナの選択はウクライナの選択だが、我々はイタリアの兵士を一人もウクライナに派遣するつもりはなく、イタリアから送られた軍事装備はウクライナ国内で使用されるべきだ」

同国のサルヴィーニ副首相兼インフラ交通相も、タヤーニ氏の考えを支持した。

「イタリアは誰とも戦争をしていないし、子どもたちには第三次世界大戦を恐れて育ててほしくない。我々は軍事支援などで当初からウクライナを支援してきたが、これらの兵器は国境の外で人を殺すのに用いられるべきではない」



<https://sputniknews.jp/20240526/18491410.html>

## ⑥ ロシア外務省は、西側諸国は 10 月までにグルジアで新たな「マイダン」を実施できると述べた(2024年6月4日)



ハイル・ガルージン副大臣は、米国と EU 諸国が多くの主権国家に恥知らずな圧力をかけていると指摘した

モスクワ、6月4日。/TASS/です。西側諸国は、ロシア連邦国境付近に新たな緊張の温床を作り出すため、10月までにグルジアで新たな「マイダン」シナリオを実行しようとしている。これは、ロシアのミハイル・ガルージン外務副大臣がタス通信とのインタビューで述べたものです。

「10月に予定されている議会選挙の文脈で、グルジアの状況をエスカレートさせようとする欧米人の試みが見られる」と、この外交官は述べた。「ロシア国境付近に新たな緊張の温床を作り出すことを期待して、政権交代という『マイダン』シナリオを実行しようとするのが目的であることは否定しない」

彼によれば、アメリカ合州国と EU 諸国は、多くの主権国家に恥知らずな圧力をかけている。「今回、西側諸国は、グルジアの「外国の影響の透明性に関する」法律の検討に関連してジョージアを引き受けることを決定しましたが、米国や世界の他の国々では、このトピックに関する「少数派」がすでに存在するか、はるかに厳しい規範と見なされています」と副大臣は言いました。- 「民主主義を損なう」という偽善的な非難、「ヨーロッパ」および「ヨーロッパ-大西洋」の価値観との矛盾、および個人制裁を適用

するという脅迫、グルジアの「ヨーロッパ-大西洋の見通し」を妨害し、EU 候補国の地位を奪い、ブリュッセルとワシントンに注がれたこの国の市民のためのビザなし制度の停止

ガルージン氏はまた、5 月中旬にトビリシで行われた街頭抗議行動にリトアニア、エストニア、アイスランドの外相が参加したことにも注意を喚起した。「これを独立国家の内政への露骨な干渉としか言いようがない」と彼は強調した。「これらはすべて、主権を制限しようとしている国々に自分たちの意志を押し付ける新植民地主義的慣行の不快な例だ。

<https://x.com/Tamama0306/status/1797939371733299593?s=09>

### ⑦反戦活動家のパスポート、国務省に没収され飛行機から引きずり降ろされる - スコット・リッター(ジミー・ドアー・ショー、2024年6月6日)

元海洋情報将校で国連武器査察官のスコット・リッター氏は JFK 空港において、セントポール行きの準備をしていた。主要な会議のためにロシアのサンクトペテルブルクを訪れた際、国務省の命令により税関職員がリッター氏のパスポートを押収し、飛行機への搭乗を拒否した。

ジミーはリッターに何が起こったのか、そしてなぜ国務省が今回のロシア訪問を阻止するために彼を標的にしたと考えるのかについて話す。

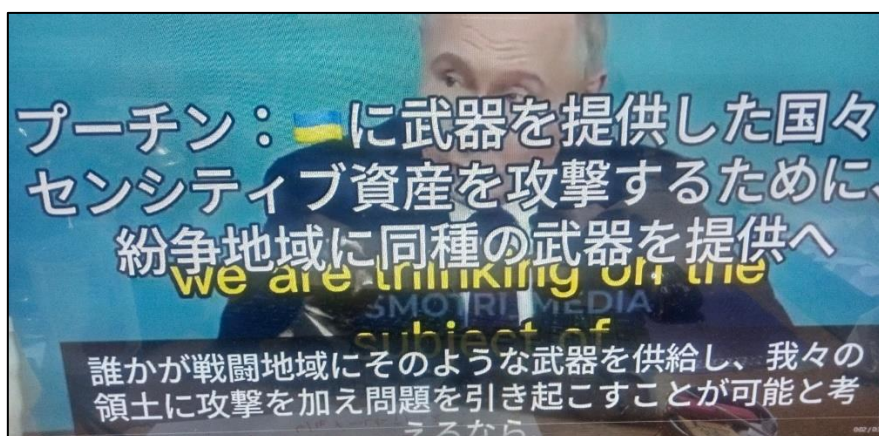
<https://youtu.be/vAHyB-gpCFE>



<https://www.youtube.com/watch?v=vAHyB-gpCFE>

### ⑧プーチン:ウクライナに武器を提供した国々のセンシティブ資産を攻撃するために、紛争地域に同種の武器を提供へ(2024年6月6日)

<https://x.com/i/status/1798637488447291416>



## ⑨会談でプーチン大統領が沈痛な面持ちで発言(2024年6月6日)

彼は西側諸国とそのエスカレーションについて語った。西側諸国がいかに核報復の脅威を真剣に受け止めていないか、私はこれは米国と西側の指導者たちの重大な過ちだと思う。

紛争に関しては、私が若い頃に学んだ知恵がある。ルールや境界線なしに行動する者は、ルールや境界線を持つ者よりも常に優位に立つ。

つまり、アメリカは、ロシアが西側のエスカレーションに対して、平静で、責任感があり、堅実で、慎重であることを、弱さ、重大な過ちと見なしているということだ。ガラスの橋の上でネズミがゾウを困らせているところを想像してほしい。もし象が報復すれば、橋全体が破壊され、両者が破滅することになるからだ。

これはアメリカからロシアに対するものだ。米国はロシアが冷静沈着で、軽率で暴力的ではないことを知っている。ロシアが控えめで、世界が引き裂かれるのを見たくないことを知っている。一方、アメリカは目標を達成するためには手段を選ばない。事実、アメリカは核兵器を一度だけでなく二度も使用した唯一の国である。アメリカは考えることをやめず、選択肢や結果を吟味せず、ただ好きなように行動する。

ロシアの方が責任感が強いという事実は弱点とみなされる。だからアメリカは、「この熊を突けば大丈夫だ、ロシアは世界を終わらせるようなことはしないだろう」と考える。

しかし、もしロシアの存在が西側諸国によって脅かされたらどうだろう？ロシアは押し流されるままに遠慮しているべきなのだろうか？私は絶対にそうは思わない。西側諸国はエスカレートするロシアを追い詰めようとしている。そして、ロシアは私たちに警告するためにあらゆる手を尽くしている。あなたが知っている、あるいは故郷と呼んでいる町、都市、州が地球上からなくなる日が来るかもしれない。ロンドン、ベルリン、ワシントンが地球のクレーターになる日が来るかもしれない。

あなた方は、指導者たちがあなた方をどのような状況に導こうとしているのか、気にも留めないかもしれないが、自分の仕事、子供の学校、親友の家などがもはやここにはない世界に目覚めるかもしれない。

ロシアに能力がないと思うなら、それは誤った情報であり、ロシアに心がないと思うなら、それは愚か者だ。目を覚ませ。

<https://x.com/i/status/1798638439862292685>



<https://x.com/DravenNoctis/status/1798638439862292685?s=09>

## ⑩ラリー・ジョンソン語る(2024年6月6日)

こんにちは、ラリー・ジョンソン(元 CIA 分析官)です。

セルゲイ・ラブロフ外相とセルゲイ・リャブコフ外務次官の最近の発言に注目して欲しい。二人とも真面目なプロの外交官だ。私はリャブコフ氏に会う機会に恵まれたが、実際に会ってみると、彼は物静かなプロフェッショナルだと言える。彼はとても控えめで、大げさなことやくだらない脅しはしない。

単なる歓談のために会うのであれば、彼はとても話しやすい人だ。だから、今日彼が次のように言ったのを聞いて私は仰天した。バイデン政権がアメリカの武器を使ってウクライナからロシアへの攻撃を許可する決定を下したことについて、彼はバイデン政権の動きは致命的な結果をもたらすかもしれないと言った。

彼はさらに、理由はわからないが、バイデン政権は自分達が受けるかもしれない反撃の深刻さを過小評価している、と付け加えた。また、ウクライナがロシアの戦略レーダーシステムを攻撃しようとしていることを懸念しているとコメントした。戦略レーダーシステムとは、ロシアがアメリカやヨーロッパからの潜在的な核攻撃を知らせるために頼りにしている早期警戒システムに関するものである。

リャブコフ外務次官のこの発言は、ワシントンでしっかりと聞く必要がある。しかし、これを言っているのはリャブコフ氏だけではない。セルゲイ・ラブロフ外相は、リャブコフ外務次官とまったく同じ警告を繰り返した。

米国がウクライナに F-16 を配備すると決めた場合、ロシアは核兵器を搭載できる戦闘機を米国が配備したと想定しなければならない。仮にロシアがキューバに配備したら、米国はそれに気づき、最悪の事態を想定しなければならない。

さて、どうなるか？

ロシアも同じような世界に住んでいる。

彼らは、米国がウクライナの攻撃、ストームシャドウ、そしておそらくはロシア国内を 300 マイルも飛行できるドイツのタウルスミサイルの使用を積極的に奨励し支援していることを見ているだけでなく、ロシア側も懸念せざるを得ず、米国が核弾頭を搭載した核弾頭を配備していないと確信できないと懸念を表明している。

大陸間弾道ミサイルを探知するための戦略レーダーに対する先週の無人機による攻撃を受けて、ロシアにとってこの懸念は特に深刻なものとなっている。これらのレーダーを攻撃する正当な理由は何もない。

ウクライナにおけるロシアとの陸上戦において、ウクライナの大義を推進するものではないからだ。このような攻撃を行う唯一の理由は、ロシアの早期警戒システムを破壊することである。したがって、この問題に関するロシアのレトリックは劇的に変化し、彼らは報復をためらわず、先制的な積極的措置を取ると警告している。

彼らは本気で、本気であるがゆえに、米国に警告を発している。だが問題は、バイデンのホワイトハウス、国務省、そして CIA の中で意思決定をする立場にあるアメリカ人の多くが、単なる脅しとして片付けていることだ。

特別軍事作戦の開始以来、ロシアの軍事行動を監視してきた私の観察によれば、ロシアは無為な脅しはしない。

ロシアは、その目的、何をするつもりなのか、越えてはならないレッドラインとして何を考えているのか、非常に率直に表明する。

西側諸国は、ロシアがこれまで忍耐強く、例えばクレムリンを攻撃した無人機攻撃で報復しなかったのは、ロシアの弱さや恐怖の表れだと思い込んでいる。

そんなことはない。ロシアの忍耐強さの表れなのだ。だが、我々西側諸国は、ロシアの忍耐強さをロシアの愚かさと勘違いしている。これこそ、先日の警告を発したセルゲイ・リャブコフが念頭に置いていた致命的な誤りだと思う。

私は、全てのアメリカ人が、自分の議員や上院議員に連絡を取り、ロシアと戦争をしたくないと伝える義務があると思う。ロシアと核戦争をするリスクは冒したくない。我々はロシアと腰を据えて話し合う必要がある。キューバ・ミサイル危機の最中でさえ、ロシアとの核戦争に突入する寸前まで至ったのは、当時のソ連だった。

その危機の最中でさえ、ジョン・F・ケネディ大統領の弟であるロバート・F・ケネディはロシアと直接話をしていて、彼らは連絡を取り合っていた。その危機の際には、双方に多くの誤報と誤解があったことが判明した。

ジョン・F・ケネディ大統領でさえ、米国がロシアに届く核ミサイルをトルコに配備していることをこの出来事の前には知らなかった。ロシアがキューバにミサイルを配備したことを味わった時、我々は全く気に入らず、自分達がロシアや当時のソビエト連邦のこのような反応を実際に引き起こしたことに気付かずに怒った。

その危機は、冷静さが勝って平和的に終わった。私は今、ワシントンには冷静な頭脳がないことをとてもとても心配している。

民主党側には、気弱で頭の悪いジョー・バイデンや、同じく気弱で無能なアントニー・ブリンケン国務長官、無能なジェイク・サリバンがいる。このような人たちは誰もが核の炎をもてあそび、アメリカ市民を危険にさらしていることを理解していない。同じように、共和党側からも声はほとんどない。

上院側の J・D・ヴァンスとランド・ポールだけが、理性と常識を語り、緊張緩和のための協議と交渉の開始を促そうとしている。それどころか、バイデン政権は火に油を注いでいる。これは核の影響を伴う火遊びだ。

もっと明るいメッセージをお伝えしたいところだが、ロシア高官の発言に注意を払うことの緊急性を強調せずにはいられない。彼らは冗談を言っているのではない。口先だけの脅しでもない。彼らは本気で、我々は注意を払う必要がある。

<https://x.com/i/status/1798610814208987480>



<https://x.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1798610814208987480?s=09>